



美の觀景を望むウラフグンユと氣空な煙高は、付のシケーラタンイるゝ間に湖ツン・リブと湖ンツ
 リ 運大のシケーラタンイ
 〇るせ見むき腰股の萬八七してし憎も口人然俄ひは賑で客響避はに季夏がるあで村の餘千三にかづり口人。ろみてつなと地響避の好絶りよにと

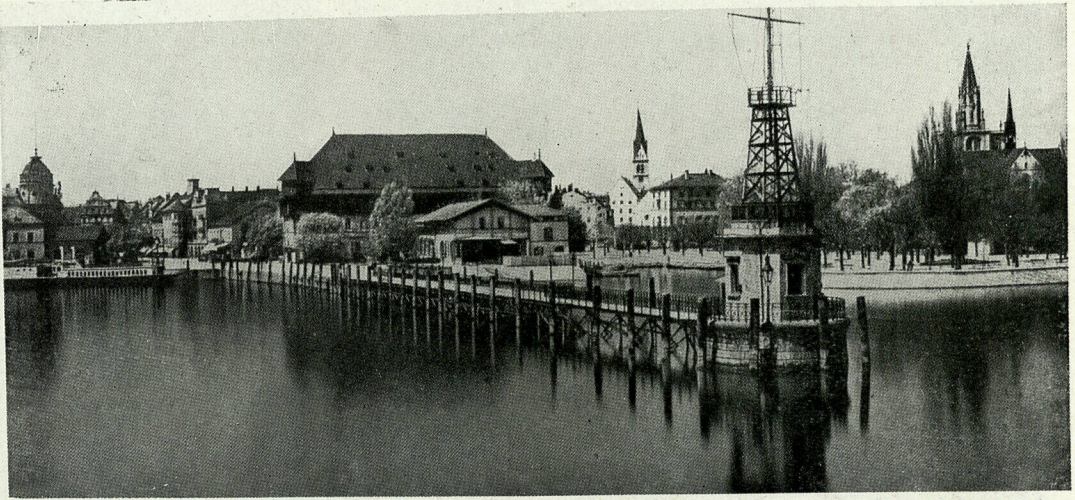
七、スウイス

都邑めぐり

ラインを遡る

ヨーロッパの中でスウイスほど景色をもつて世界によく知られた國はない。その世界の公園たるスウイスの山水の美は、今更喋々するまでもない。ぐんと抜んでた高燥の地、清澄の空とお花畑、樂園は、こゝに獨立心に富む豪俠質朴の氣風を産み、美の國スウイスの王國を育んだのである。恵まれたるスウイス、山國スウイスよ。旅行者が山間の小國のつもりで一步スウイスに足を踏入れるときは、あまりにも發達した大都會の連珠に、今更のやうに驚嘆の眼を見開かざるを得ないであらう。そしてあまりにもすぐれたるその文化に、「スウイスを見ずしてスウイスを語るなかれ」と叫ばざるを得ないであらう。

しかし、この國が四一、二九八平方キロの面積に對し僅三萬五千の人口であると聞いてはわれわれは、再び驚かざるを得ないであらう。スコットはこの國を指して、「もしこの國が平地にあつたなら、膨大はその限りを知らないであらう」といつた。しかし平原にスウイスを想像した場合、そこには山國のよき氣質と、美の國の誇りをも得なかつたかも知れない。國の南方には、アルプス連鎖の大横隊があつて、サンゴタルトの山塊には群峯聳立し、ヘルベティヤン・アルプスの主脈は、その南東ティロールにレティヤン・アルプスの分枝を出してゐる。またペニン・アルプスは南西の方向に横はつて、分脈をフランスに及ぼしてゐる。そしてそこにヨーロッパの最高峯モン・ブラン（四、八一〇メートル）が、一段高く四方の山々を睥睨してゐる。これ等の山岳の水を、北にライン川、南にローン河が集めて、所々に谿谷の美を織込みながら、いやが上にもスウイス風光



コスタンス湖の風景は美しいといふ。この湖は、スイスとドイツの境界にあり、その美しい風景は、スイスとドイツの両国に愛され、観光客の多いところである。湖のほとりに建つ建物は、すべてが美しい。湖のほとりに建つ建物は、すべてが美しい。湖のほとりに建つ建物は、すべてが美しい。

の美をレファインセ
 しめてゐる。
 これより、恵まれ
 たる美の山間に点在
 する、スイス都會の
 巡禮に筆を染めて行
 かう。
 先づラインを遡つ
 てスイスの北境に
 位置するバーゼルを
 訪ね、こゝを出発點
 として、時計の針の
 やうに右廻りに見物
 して行く。
**バーゼルと
 コスタンス**
 バーゼルはスイス
 ス、フランス及びド
 イツの三國の國境交
 叉點で、首府ベルン
 の北東六九キロの位
 置にある。ライン河
 は此都市を左堤に大
 バーゼル、右堤に小
 バーゼルの二部分に
 分けてゐるが、バト



バゼルに架かる新橋は、美しい。この橋は、スイスとフランスの境界にあり、その美しい風景は、スイスとフランスの両国に愛され、観光客の多いところである。橋のほとりに建つ建物は、すべてが美しい。橋のほとりに建つ建物は、すべてが美しい。橋のほとりに建つ建物は、すべてが美しい。



はらかこ。ろちでり通レーブテンヤシトリ通シラブンモるえ見に眞寫のこは區街いし美も最の市グーネ。リ退大のグーネ。ユジ。るあで路街な名有も最はでグーネ。ユジ。るそきでがとこるめ既に分存を觀大の峰雪山連スプリアな麗壯大雄つナ。時に空のたなかロキ六五約

大學は、一四五九年ポプピウス第二世によつて創設され、一八一七年に再築されたものである。附屬植物館と、廣大なる植物園と、大圖書館があつて、この圖書館は、實に二四萬卷の書籍を藏してゐることである。この學都であつてまた商工業の都市バーゼルは、スイスの主要都市なることは勿論、このリボン工業はスイス第一で、八千人からの職工がこれにたづさはつてゐる。尙ほ

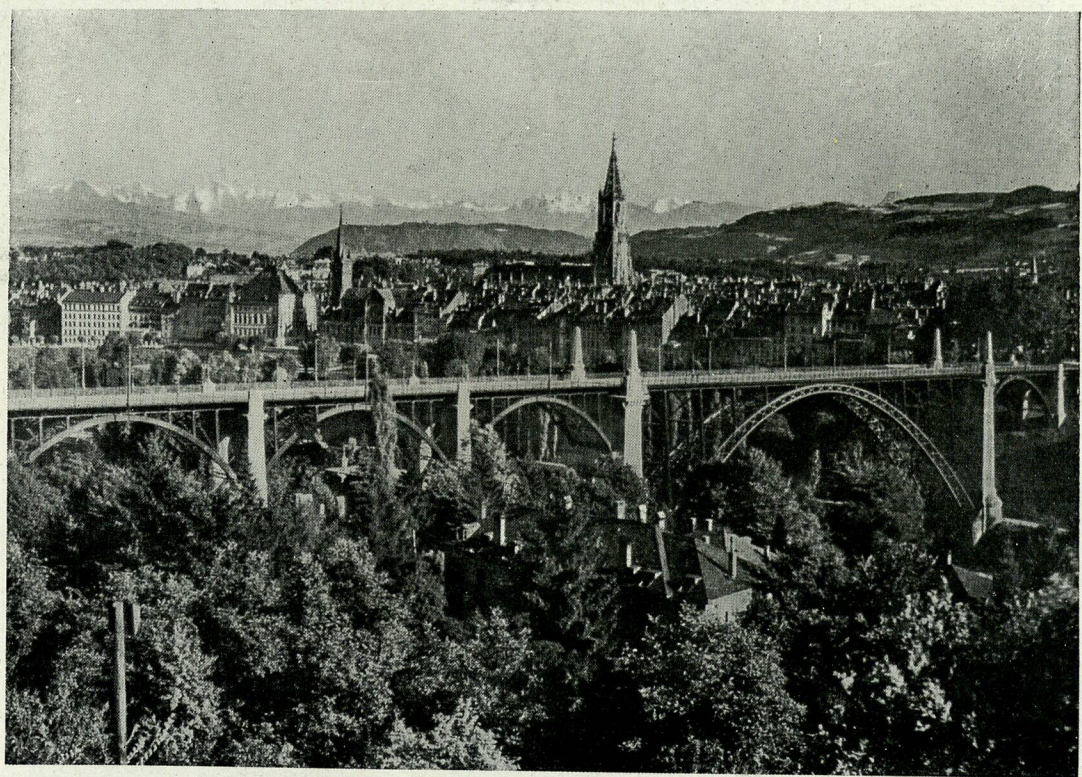


御てれき放解らか從忍のてしと國屬の問い長はスイス 碑念記國建のスイス。るあでのたて建を碑念記大一のこに呼湖グーネ。ユジ。くべす念記をれこは民國やるす立

ゼルは昔城壁で圍まれた町で、今日はそれ等の舊城壁や城壕にモダンな運動場に置替られ昔の城門の二、三は今日まだ町の一角に残つてゐる。市街の一番繁華な場所はスバーレントルで、一四〇〇戸ばかりの戸数が連つてゐる。このカセドラルはスイス最初の教會の二で、ヘンリー第二世の時代即ち一〇一〇年から一〇一九年に建設されたものである。またスイスの代表たるバーゼル

リンネル、紙、絹、手袋、革、玉細工、布等の工業が廣く行はれ、特殊なものは、バーゼル・レッカーリーといふ菓子に有名なる産物である。人口は今日約十萬五千餘で、人民は多くはゲルマン人種である。

次に訪ぬべき都市はコンスタンスである。こゝは昔のバーデン大公國の堡壘をもつた町で、ライン河の東なる源たるコンスタンス湖に面し、シャフハウゼンの鐵道線により四八キロの所にある。藝術の町で、最も有名な建物はカセドラルであらう。この廟堂は第十一世紀に建設され、後修繕改築され、その建築美は、風光明媚のコンスタンス湖と共に、旅行者を喜ばし得られる。このカセドラルと昔からのドミニカン修道院が今日ホテルになつてゐるのは面白い現象である。尙ほ興味深い建物はバル

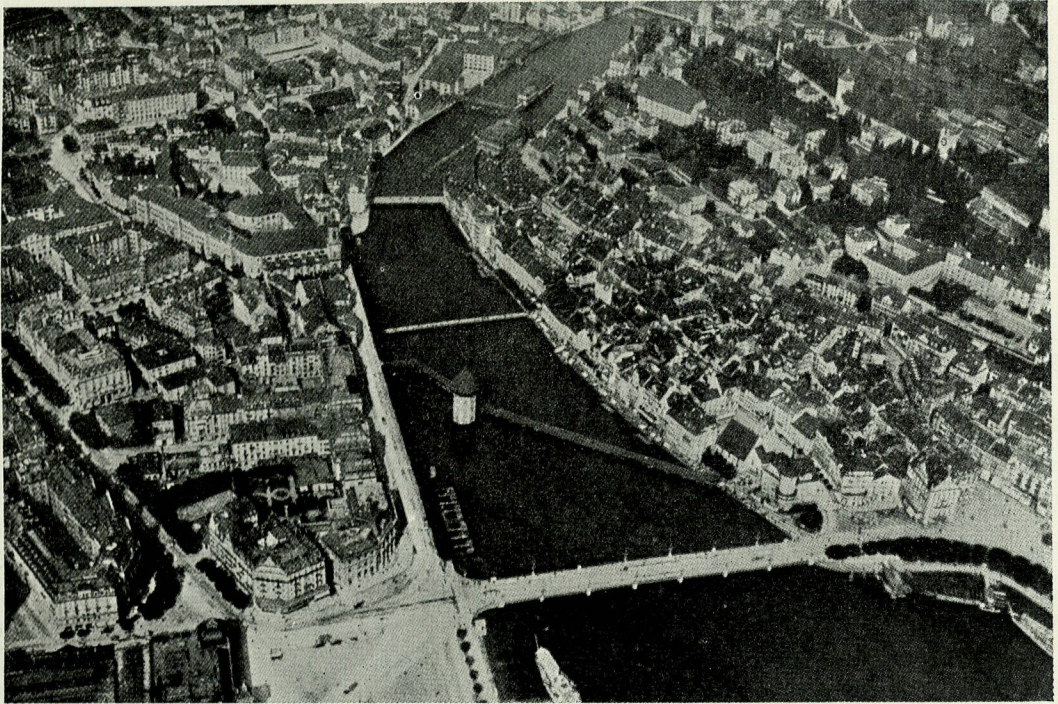


美しき山國の首都 スイスのグレンヘンに在るグレンヘン橋の風景

パロザ・ホテルで 一一八三年フレデリックがロンバルドレーギエ市との商業條約にサインをしたのはこゝであつた。コンスタンス市は、あらゆる點において富んでゐることが、旅行者にも察せられる。こゝの機械工業は非常に發達してゐて、しかも優秀なものである。その取引は實に盛んで、北スイスを代表するものであらう。立派な橋が、コンスタンス市とライン河右岸に廣がる郊外とを結んでゐるが、この邊も實にのんびりした昔のドイツの古都市を思はせる、すぐれた風景に恵まれてゐる。人口は今日二萬餘で、將來工業地として發展を見る土地であらう。

セントガレンから
ジュネーヴへ

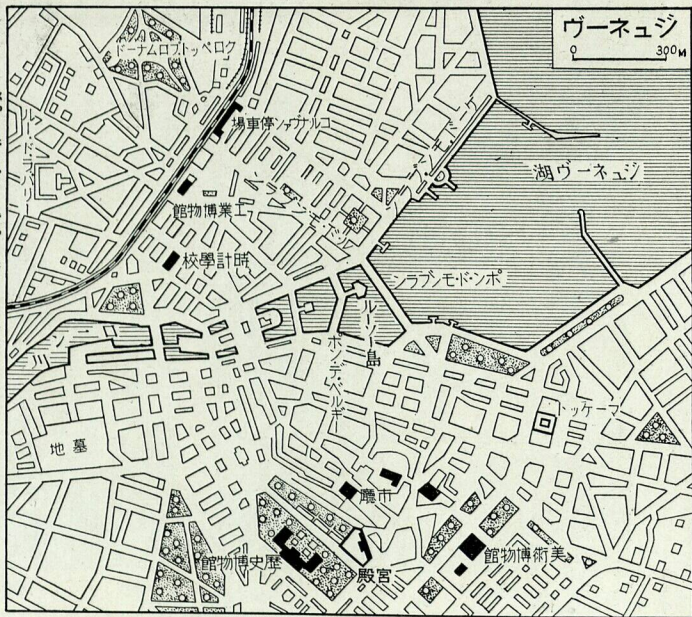
次にコンスタンスの南方、ドイツ國境近くの高地にあるセント・ガレンの町に移る。こゝは南方にアルプスの連峯を望む、眺望のたかな一小事街。アルプスの連山を左に、ゴタルト、ユングフラウの峻峯を望みつゝ、南西に進むと、フランス國境近くにジュネーヴの大都市がある。こゝはジュネーヴ湖の南西端に位して、一部はジュラ山脈のなす盆地に、一部はアルプスの第二の鎖にまたがつてゐる。



ルてつあに向方の西北の町は府首。るあでトーソレ・トスリーツな一ラユビボも最のドンラアスイウスは街市のと **街市のンルェツル**
 るあで會都大の區のこてし備完か物建の種各で麗壯は街市。るみてれ流ロキC四約に西々南はれこし出を川スイロはらか水湖ンルェツ

四周山と水に包まれた静かな詩の町である。町の中央をローン河が流れて町を二分し、九個の橋がこれを結んでゐる。河の左側は古い町は、行政、商業、財政がよく整つてゐる。河の右側には四個のセント・ゲルヴェスがあつて、労働者が大部分を占めてゐる。町の昔からの場所は湖水からよほど高所にあつて、狭い薄暗い急傾斜に家の軒が不規則に連つてゐる。ロース河附近の町は商業の中心で、殷盛を極めてゐる。

ジュネーヴは學術の中心で、工業に關する諸學校及び種々の私立學校があり外人の保護のもとにある。スイスの科學と藝術の殿堂は、ジュネーヴである。ここは學術の中心地なると共に、また商工業の中心地で、玉細工、樂器、物理學及び電氣學に關する諸機械が取扱はれてゐる。中にもダイヤモンド・カットティングや、染料またはクロノメーターの試験法などは、工業中最も秀れたものである。ジュネーヴは非常に好い氣候で、夏と冬は外來客で極めて賑かである。スイスを訪れてジュネーヴを見なければ、ほんとうにスイスを味ふこと



は不可能であらう。それほど、ジュネーヴは、風光絶佳の地である。

ジュネーヴに惜しき別れをつけて、同じ湖畔の北岸に臨むローザンヌを見物しよう。こゝはモント・ヨラートの階段傾斜地上にあつて、ジュネーヴ湖上一四三メートル、海拔五一五メートルの高地である。人口四七、四〇〇の小市街で、古い町は狭く、不規則に建てられて、特に見るべきもの

とてないが、新しい町及び建物の配置は實に美麗で、湖と山岳の美をめぐらしてゐる。この町もバゼルと同様に、スイスの最初のカセドラルの一つを有してゐる。これはまた裁判所フエデラル、或は全スイスの控訴を取扱ふ法廷を、その中に含んでゐる。こゝにはまた縣の博物館、圖書館、藝術品陳列館、その他が並んで建られてゐる。

教育機關としては全學部を備へる大學があり、その他に幼稚園、小學校、中學校、女學校、兵學校等がある。尙ほ文學、美術、藝術に關する諸機關が完備してゐる。工業としては製鐵業、鑄造業、機械業、麥芽製造業、その他、チョコレート、紙、革などの製造が盛である。

ローザンヌから左にジニラの山脈を望みながら、盆地を北方に進むと、



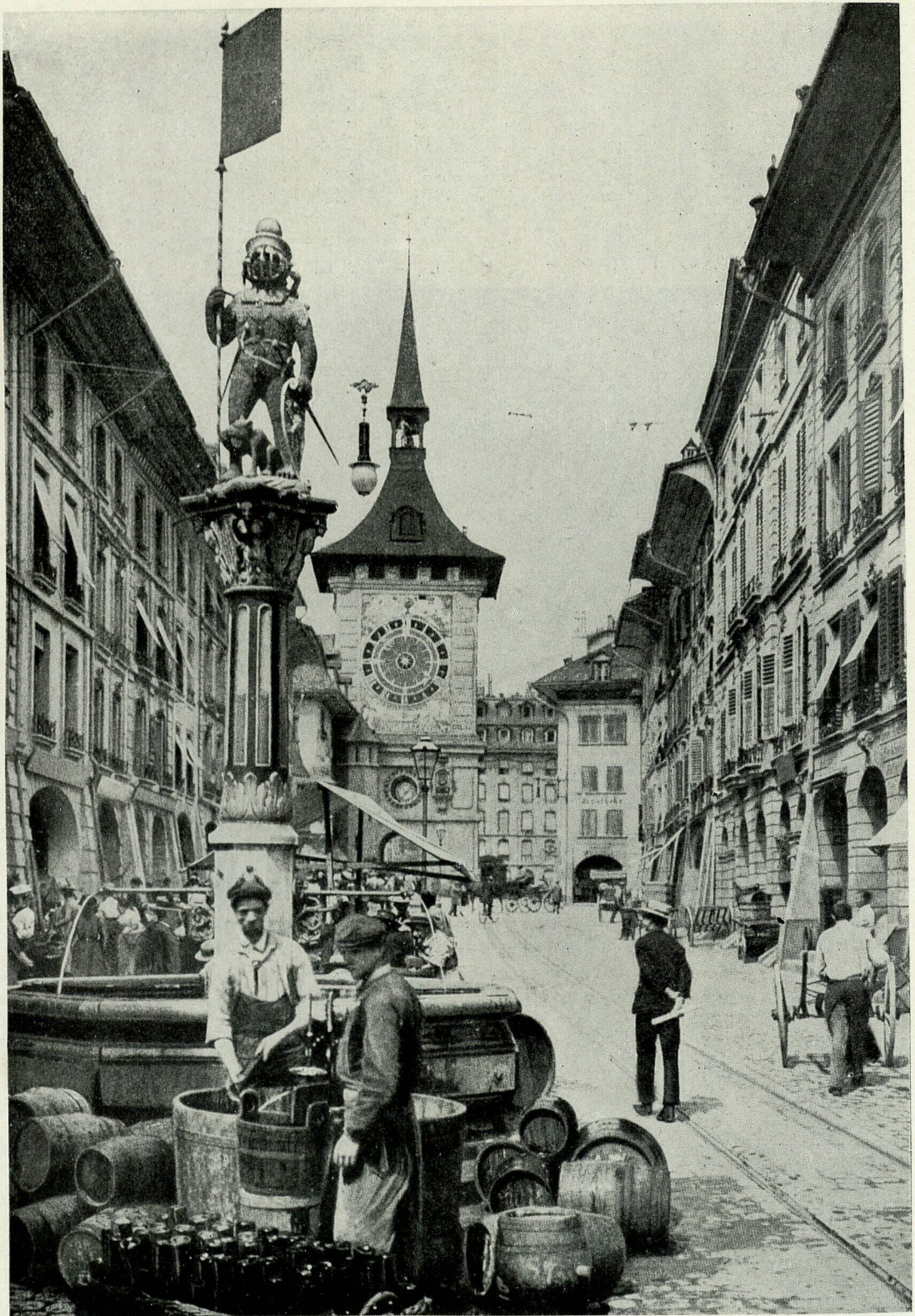
ヘルキフホ
—ホンウタイ古め初をルガドオレ・トンセキヘルキフホはにルエツル
。るあて院寺ヘルキフホ頭筆のそは眞寫。い多か物建な派立たそなき大等館術美術古考ヤル

ニエーシャテルの北西湖畔に、ニエーシャテルの町がある。首府ベルンから西四〇キロ離れた所で、海拔四三七メートルの小都市である。町は昔の城の跡で第十二世紀時代のカセドラルを始め、官衙、孤兒院、癡狂院、各種のホテル、及び四學部を有するカレッジ・ラーティンがある。歴史博物館、十萬卷を藏する圖書館美術館、人類學博物館、氣象觀測所等もある。

首都バーデン

いよ／＼スイスのほゞ中央、海拔五六六メートルの高地に建てられた。首府ベルンを訪ねる。この附近は山岳地方で、その南の方向に、アルプス山脈の有名な諸峯が相列んでゐる。フィンスター・アルホルン、ユングフラウ、シニレックホルン、メンシモ、アイガイ、ヴラターホルスの群峯は、峨峨として雲を呼んがゐるが、これ等の諸峯の階段臺丘はベルネーゼのオーベルランドを

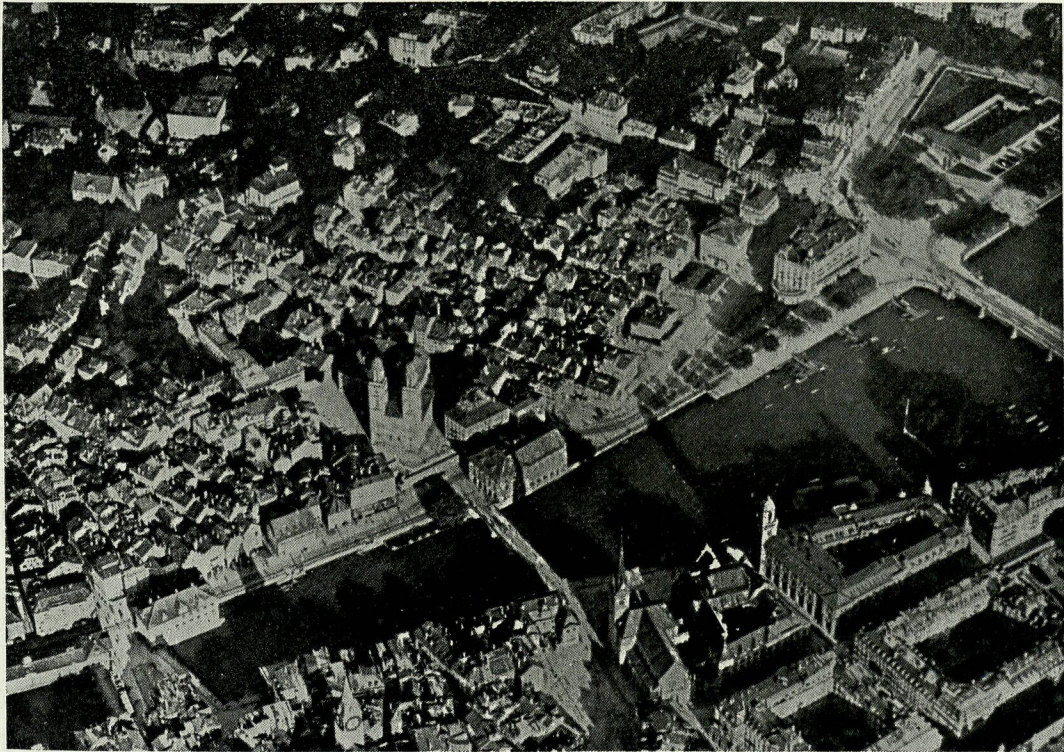
構成してゐる。この邊はアルプスの堂々たる威風を備へてゐるところで、雪と氷の輝く氷原は谿谷の響に無限の神祕を包んでゐる。町はアルプス河の上流、アール河によつて構成された小さな砂洲に建てられ二三の橋が古い町と新しい町を結んでゐる。ベルンはまたスイスの最も美麗なる町の一つで、主街は兩側の家屋で一大ギャラーを成



ルエツるす念記を公ンゲンリルエツと塔計時につ一の物名の市ルベ都首のスイス 泉噴ンゲンリルエツと塔計時のルベ
。たつあで市由自は、ことも。のもたし造築の公ンゲンリルエツ代五第め初の紀世二十第は壁城の市のこる残も今。るあが泉噴ンゲン

し、附近には美しい泉があつて、泉の周囲には藝術の極を盡した女の裸體彫刻像が並んでゐる。すぐれた建築物はやはりカセドラルで、その他には、古い會議場、諸種の條約の會議場、美術博物館、古生物博物館及び一八三四年に建設された大學がある。また帝國圖書館には十二萬卷の書物を藏し、市の圖書館もそれ相當の書籍を所持してゐる。製造業には織物業、物理化學機械、數學器具、チョコレート製造等が盛である。

ベルンを後に東方のルツェルンを訪ねる。こゝはルツェルン湖の北西岸に位し、人口稠密な町である。チューリッヒの南々西四〇キロの所で、鐵道線によつて連結されてゐる。海拔四三七メートル、風景の美はしい所である。スイスはこの町も山水の美に恵まれてゐる。ルツェルン市街の一部



家の方後たて隔を川。るあで院僧女の方後で院僧大のトマリが面前ちうの物築建なき大の前手の川渡窟。て見に下眼をヒリーユチ。るあてし呈え窺美で市都的代近て極にうよるれは觀もて眞窟は、こ。るあてい續でまに岸海み遠で待市のトツタユシルアクユテユシは群の

は、城壁及び高さ四八三メートルの高地に、望樓がまだ残つてゐる。人口三萬餘、市街はアルプス山脈の諸高山に面し、藍を流したやうなロイスの急流が市を貫き、そこに八つ橋が架せられてゐる。何れも橋に屋根がふいてあつて、屋根裏に色々の繪が描かれてゐるのは、異様な感に打たれる。郊外はスイス仙境中の仙境といはれるところで、その美は文筆のよく盡し得ぬところ、市中には各種の博物館（中にも戦争と平和博物館は特殊なものである）學校、圖書館、病院、郵便局等の建物が、よく整頓されて並んでゐる。ロイス河の岩の上にある、ワッサー・トゥルム（水塔）は、ローマ時代の燈臺であつたといふ。

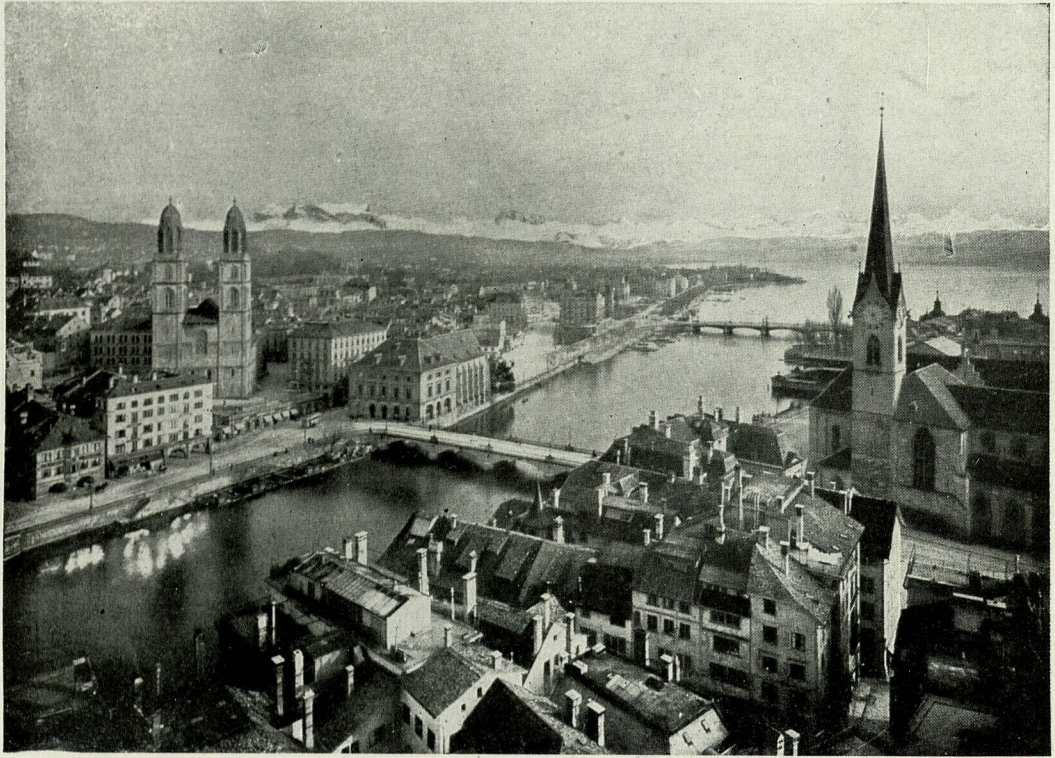
近代都市チューリッヒ

こゝはスイス國中の最も繁華な近代都市で、商工業が盛であつて近來絹工業の中心地をなし、重要な綿、製紙、機械、製鐵などの諸工業が、めざましい勢で發達してゐる、人口も隣接都市を加へ

れば約三十萬に達し、スウイス第一の大都会である。市街はチューリッヒ湖の北端に位置し、アール河に合するリマト川が市の中央を靜かに流れて市街を二分してゐる。即ち河の右側はグロッセ・スタットで、左側はクライン・スタットである。市街の舊市街は狭い急傾斜地にあつて、この邊一帶には奇妙な影の、高い家が軒を列べてゐる新市街は街幅も廣く、立派な優美な建築物で満たされてゐる。

リマト川に沿ふ壯大な埠頭は、附近に完備した運動場、遊園地をそなへ、またコンサート・ルームなどを設備した會合所などもある。この南方には、東に向いたパンホッフストラッセの廣い大通があつて、驛まで通じてゐる。

優美な新しいクワイ橋は、リマト川が湖水から流れ出るところに架つてゐる

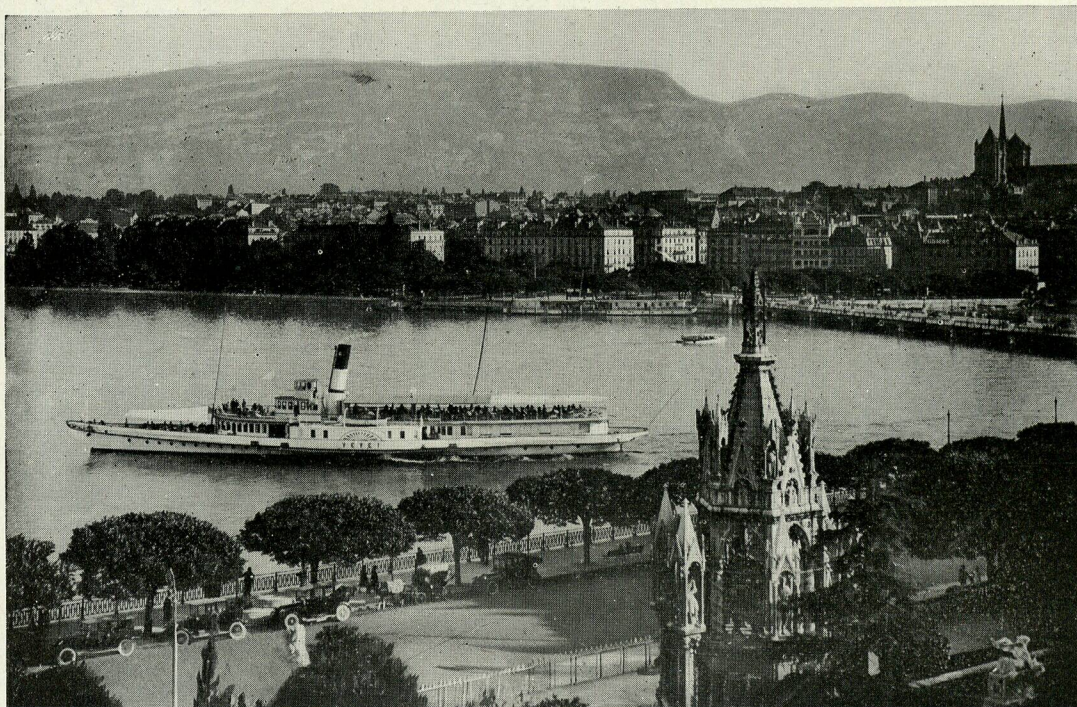


ヒッリーユチ
 流に於ては人口を市都接へ加ばれば約十三萬に達し、スウイス最の華繁な近代史的な名蹟を有する第一の市街である。市街の中心を流れるリマト川は、湖の北端に合する。右側にはクライン・スタット、左側にはグロッセ・スタットがある。市街の舊市街は、急傾斜地に建ち、奇妙な影の、高い家が軒を列べてゐる。新市街は、街幅も廣く、立派な優美な建築物で満たされてゐる。リマト川に沿ふ壯大な埠頭は、附近に完備した運動場、遊園地をそなへ、またコンサート・ルームなどを設備した會合所などもある。この南方には、東に向いたパンホッフストラッセの廣い大通があつて、驛まで通じてゐる。優美な新しいクワイ橋は、リマト川が湖水から流れ出るところに架つてゐる。

橋であるが、この附近には郵便局、町役場、劇場、並に近代的建築物が、天を摩して櫛比してゐる。

このクワイ橋の東方には、四つのアーチをもつたミユンスタール橋がある。またこの左側には、第十二世紀に架けられたフラウミユンスタール橋が並んでゐる。右側には昔からの市の圖書館がある。これはツウイングリーの遺物で、現在十萬七千巻の書籍を藏してゐる。ミユンスタール橋の東にはローマ式の教會グロッセ・ミユンスタールがあつて、これは第十一世紀に建築され、内部にはチャールス大帝の像が安置されてゐる。この教會の東には壯大な市役所があり、この附近も賑かな通りで、スウイス帝國博物館が特に有名であらう。ここには最も完全な歴史的遺物、藝術品、陶器類、宗教上の遺物、珍しい寶玉などが陳列されてゐる。植物園はアルプスの諸植物で飾られ、壯大な趣に富んだ場所である。チューリッヒはまた、前述の如く教育機關發達し、美術、音楽、繪畫、工藝に關する諸學校がある。

チューリッヒの北西二キロ半にあるバーデンは、硫黄泉をもつて古來有名な所、人口六千餘、一七一四年スペイン繼承戰爭の條約はこゝで調印された。



古千のラフ・ンモに岸兩の河ンローで名有に程るれらへ遠聞へさと府首のスイスくよに人國他はヴーネヅ **ヴーネヅ市都** 景國
 ることるすとうよし帆出てし載滿を客訪が船覽遊は圖。るあて町るみてつが展にうキの畫に畔湖ヴーネヅなうキの夢め眺を峰雪く載を雪の

國際聯盟とジュネーヴ

國際都市ジュネーヴ

旅行者の是非一度は杖をひかねばならぬ場所が、歐洲大戦後に歐洲に一つできた。それはスイスの國ジュネーヴの、國際聯盟本部である。名所といへば、多くは死せる歴史に屬するものであるが、聯盟は現に活き且つ發展しつゝある名所である。

スイスは既にそのアルプスの峻峯と、綠濃き牧場と紺青の湖水とをもつて、旅人の心境に深く喰ひ入つてゐることは今更言を俟たない。かうした天然の端嚴と、人情の實質とがびつたりと合つて、こゝにこの小さな國土に「平和」と「自由」と「正義」とが思ふがまゝに培植されてきたのである。政治的に人道的に社會的に宗教的にそして思想的にスイスは最も進んだ自由の坩堝であつた。スイスの歴史を繙かれる讀者は、そこにスイス人の自由と、正義と、平和への涙ぐましい奮闘の足跡を見るであらう。

スイスの人文史上に新生面を劃したものは、いふまでもなく國際聯盟の所在といふ大いなる事實である。聯盟本部をどこに置くべきかについて、一九一九年のパリ平和會議では盛に議論が戦はされたが、ブリッセル説やヘーグ説を蹴飛ばして、ジュネーヴ市がこれを獲得したのである。蓋しスイスが歐洲大戦において、ベルギーとは異り、よく中立國としての地位を冒されず、且つ歴史的にも政治的にも、國際聯盟の思想に脈絡相通するものがあつたからに相違ない。殊にジュネーヴは、聯盟以前においても、かうした國際性に最も富める都市として有名であつたが、ジュネーヴの住民には割合に閉鎖的などころがないでもない。

國民のもつ國際性

スウイスの國際性は、その小さな國內にイタリア系、フランス系、ドイツ系の三種が、おの／＼その固有言語と宗教と風俗とを保持しつつ、しかも極めて圓滿に協同生活を營んでゐることによつて先づ表現されるが、しかしその最大の現はれば、數多の國際團體がその本部をスウイス國內に有し、従つてまた數多の國際會議が開かれることである。

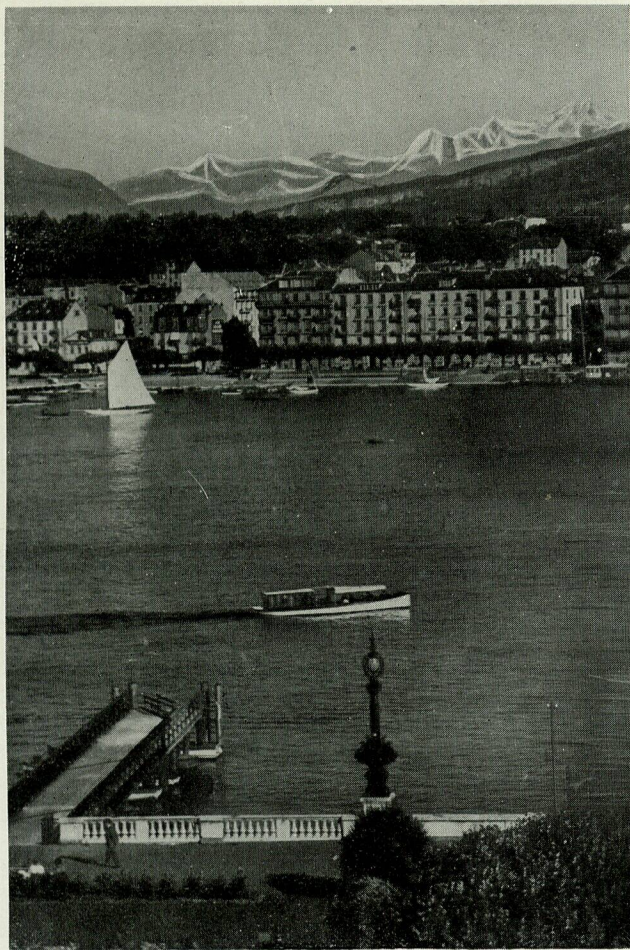
沿革

るのである。この意味からしてジュネーブは眞に國際協力の中心地といつても差支へない。況んやこれ等團體の中、最も有力な、そして公的政治機關たる國際聯盟本部の所在地たるにおいておやである。

これを數字で示せば、各種の國際團體の本部は、フランスに約七五團體、ベルギーには約六〇、オランダに四〇、イギリスに六二、米國には二三であるがスウイスには約九〇からあり、團體數において他に擡んでゐるばかりでなく、その會議回数においては、

國際聯盟關係の會議が頻繁に開かれるために斷然他國を壓してゐる。

スウイス國內について見ても團體の所在地はバーゼル、ベルン、フリブル、ローザンヌ、チューリッヒ、ジュネーブ等が主要なる土地であるが、何といつてもジュネーブに匹敵するものはない。蓋しこの國に所在する九十からの國際團體の中、五十餘がその本部をジュネーブに置いて



雪の古千湖グーネエジ瀾綠ぬ、たつ一波小 ンラプ・ンモの雪る見ぎ仰
るあで所いよはグーネエジ帆き白物建の畔湖す落に水を影き白ンラ・ンモき白

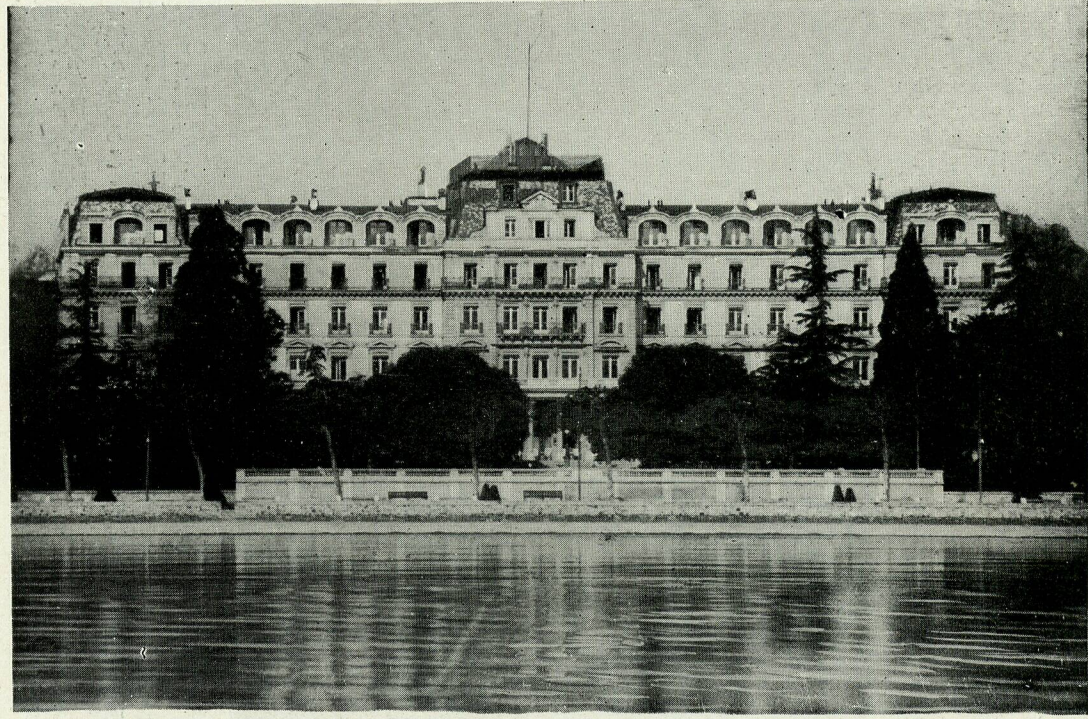
の灯の湖面に映し出されるのを見ては、ジュネーブはかなり古い歴史をもつ。それが史上に表はれたのは西紀前五八八年で、ジュリヤス・シーザーがゴール戦争の際、こゝに來つてローン河の橋を破壊し、ヘルヴェチヤ人(スウイス人の舊稱)を喰ひ止めた

るであらう。ジュネーブは、スウイスの首都ベルンよりも面積人口ともに大であつて、また國際的にも社會的にもより重要な意義を有してゐる。スウイス最大の湖たるジュネーブの湖尻、ローン河に流れ込まうとする所に、街は河口の兩岸に擴つてゐる。湖心に向つて右手にはアルプスの最高峯モン・ブランの千古の雪を眺め、左手にはフランスとの國境を成す蜿蜒如きジュラの山脈を控へ、水清く空澄み、けに一幅の水彩畫である。もしそれ晩秋の夕べ、そゝり立つサンピエール寺院の尖塔から響き渡る鐘の音に、靜かに暮れて行く街旅愁の一際身に沁みるのを覺え

いふ傳説をもつてゐる。降つて中世紀に至りヘルヴェチヤ人の獨立不羈の精神は、遂にジュネーヴ共和國を建設するに至つたが、共和政體としては現存せるものの最古に屬するであらう。従つて中世歐洲を擧げて、隱謀と争鬪と迫害の混亂に陥つてゐたときも、ジュネーヴでは平和にして自由な空氣を享樂し得たので、自らの國において迫害を受けた思想的先覺者や、宗教改革論者は、自國を去つてこのジュネーヴ湖畔に逃避した。

遁れの町ジュネーヴ

ジュネーヴは謂はゆる「遁れの町」であつた。プロテスタントの先驅者カルヴィンはその最も現はれたるものであつて、かれはこの町で新しき宗教を宣布した。サンピエールの寺院には今尚ほカルヴィンの説教したと傳へられる椅子が残つてゐる。國際聯盟が毎年の總會を開く場所はサル

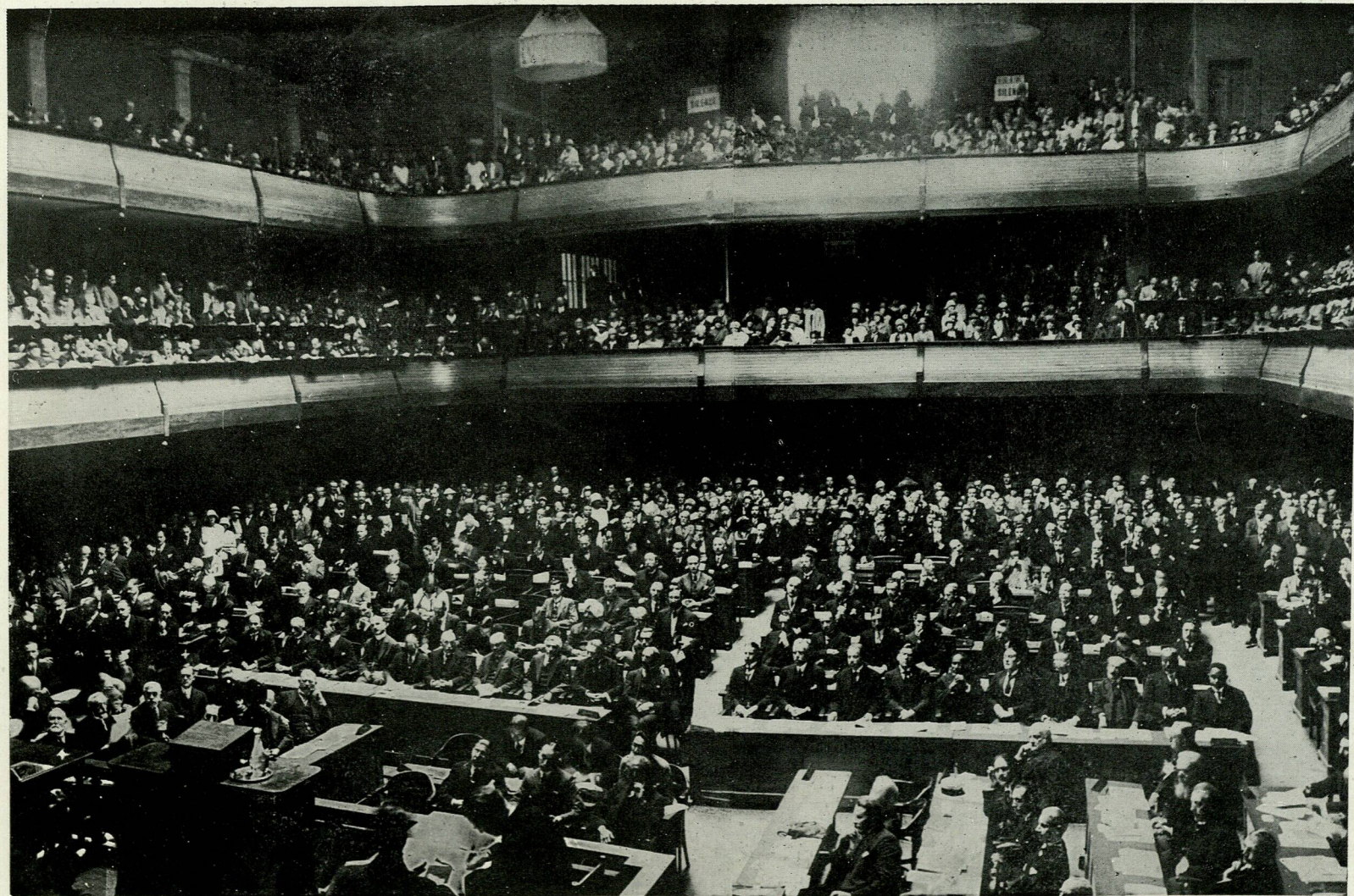


ネウシナたつたデルテホの一國のこはてつかにれづは町の畔湖グーネウジなか輕波るすに恣を望眺のンラパンモの雪
局務事盟聯際國際
ふいとたつかに築建してトを日吉近最いつでのるす感をも狭手は今で局務事のこ。るあが部本の盟聯際國たて當てし收買をルテホ・ル

ド・ラ・レフォルマシオン（改革館）で、カルヴィンを記念するためにできた建物である。ジャン・ジャック・ルソーまたこの町に生れた。湖中のルソー島に、哲人の思索に耽りつつある像がたてられてゐる。

ジュネーヴは宗教的にはカルヴィンを充分受け入れてこれを育て上げたやうに、現代においては、ウイルソンの國際政治的の革命思想に對しその生育發展の地を提供した。ウイルソンの思想や事業は、カルヴィンのそのの如く祖國に容れられず、氏は寧ろ氣の毒にも悲壯な晩年を送つたが、しかしながら氏の國際政治に對する殆ど革命的な理想は實を結んで、今やジュネーヴ湖畔に、世界の視聽を集めてゐる。聯盟本部を訪れるものは、建物の鐵柵に「國際聯盟の建設者ウードロウ・ウィルソン大統領に捧ぐ」とある大理石の碑を見てあらう。そして聯盟總會中には、誰が飾ることも知れぬ花束が、絶えたことのないのに氣附くであらう。

更にまた、聯盟本部所在の湖畔通りケー・モンブランが一九二三年頃ウイルソン大統領未亡人の來訪を機として、ケー・ウードロウ・ウイルソンと改稱されたことを聞かされるであらう。蓋しジュネーヴに「人類の議會」の中心が置かれることになつたのも、その歴史を顧みれば決して偶然ではない。



伊・佛・英・日は議會。あで家國大一なる大偉は盟聯際國に實に實。人國各るるみてし動通にめたとを務事のとほ人百五そよおたつをもを籍國の十四約てしと。屬國四十五に實國入加 **會總盟聯。承國**
るみて見え顔の表代がわに中。るあでろことるみてし席着が表代國各で真寫の會總は圖。るれた分にと會總盟聯の月九年毎るす集誓が表代の都全國入加と會事理るあ回四年の國箇九るならかどな貸

アラバマ號問題

しかしながらジュネーヴは、國際聯盟の成立する以前から國際關係においては重要な地位にあつた。まづ國際的紛議の最初の仲裁裁判の事件として有名な英米間のアラバマ號問題は、このジュネーヴ市役所の一室で、一八七二年圓滿に解決された。室は、アラ

バマのホールと呼ばれてゐる。アラバマ號事件の解決こそは國際紛争の平和的處理制度の先例であつて、これはまた正義と平和とを、ジュネーヴに特性づけるものといつてよい。

次いでわれわれの記憶に蘇るものは、赤十字條約の締結である。赤十字運動には今より百年前に、スウイス人アンリ・

デュナンの如き大先覺者あり、現存の赤十字條約は、一八六四年やはりジュネーヴの市役所で調印された。室には當時の寫眞が掲げてあるが、日本全權二三名の顔も見受けられ、感慨新たなるものがある。爾來赤十字國際委員會なる團體が成立して、博愛人道のために努め來つた功蹟は何人と雖も否定せぬであらう。



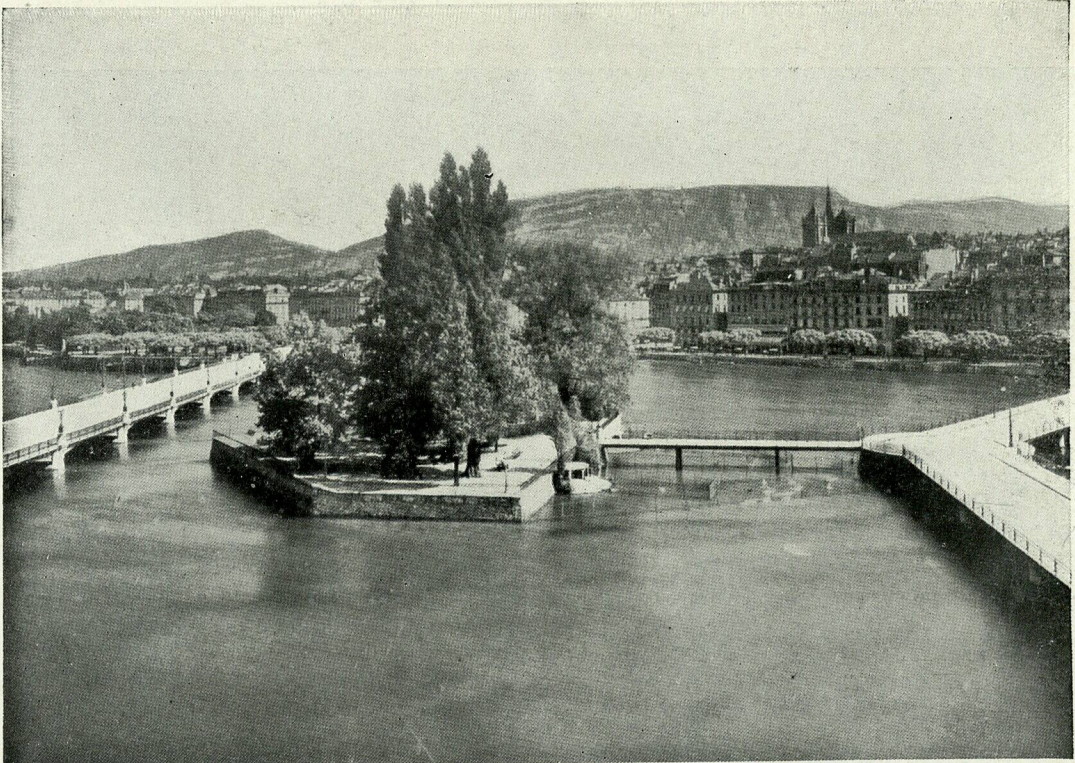
鳥瞰したジュネーヴの市
鳥瞰したジュネーヴの市。湖の上の黒に見える名所のソール島。一部

しかしながら、現在のジュネーヴ市を最も特徴づけるものは、國際聯盟を措いて他にない。モン・ブランの眺望を恣にする町はづれの湖岸に、スウイス第一のホテルだつたと稱せられるホテル・ナショナルを買収して、こゝに一九二〇年以來聯盟の本部が置かれてゐる。本部には、加入國五十四國の代表が毎年九月に參集する年一回の聯盟總會と、日英佛

伊獨その他九箇國の代表が、年四回ほど會合する理事會と、これ等の會合の準備や、調査や、決議案の作成やに當る無數の委員會などが年中開催され、またこれ等の事務を執るために約四十の國籍に分れる五百人からの各國人が、毎日本部に通勤してゐる。

この事務局に勤務する日本人は、目下のところ、事務次長杉村陽太郎博士その他三名であるが、新渡戸博士も

二年前までは事務次長として勤務されたのである。そして、聯盟總會の際などは、これ等常住の事務局員に加へて、五大洲からの代表、隨員、新聞記者、傍聴人等で、ジュネーヴは言葉通りの國際都市の觀を呈するのである。これと同時に聯盟總會を機として、この市に本部を有する各種國際團體の大會が催され、講習會が開催されるのであるから、その雑音



ソール島とモラブンラ 生だん哲人シャジ・クッジャ・ソールは今郷歸つて湖の中の名島ソールに最高峰のモラブンラを築き、その周囲に樹木を植ゑ、風景を美しくし、静けさを齎し、鐘の響きに面する湖の波がゆるやかに渡る音がする。

ムンダネウムなる世界都市の計畫に没頭し、有名なフランスの建築設計家の、コルブエジエ氏に依頼してこれを起案せしめた。その案によれば水清きジュネーブ湖畔に景勝の地をとし、一九三一年より、そこに國際的大議事堂、博物館、國際大學、無電臺等を築き、國際都市を建設せんとするにあるので、そのため各國政府及び國民の協力を仰ぐといふのである。

その計畫は當時夢の如きものとして顧みられなかつた。けれども今や國際聯盟では、約二十萬圓の巨費を投じて、湖畔に聯盟の總會議事堂、理事會議室、圖書館、聯盟事務局の四部より成る雄大壯麗な一大殿堂を建設するに決し、本年九月の總會で、定礎式を舉行する豫定になつてゐる。また聯盟所屬の國際無線電信局を設置する議も、目下スイス政府と交渉中であるから、これ等が完成の時は、オートレー老人の夢は自然實現されるわけであつて、ジュネーブが國際的中心都市としての特性は、ますます發揮されるわけである。

人文の進歩は容易に豫斷を許さない。十年先きのことすらわれわれに豫言できないのである。今日の國際聯盟は各國の主權を前提として、その基礎の上に建てられたる國家の聯合體であるが、これがこのまゝに止まるや、それとも更に發展して、地球が一つの世界國家にまで融合するやは私にも分らない。しかし、もし世界國家の如きものが成立するとしたならば、ジュネーブは、やがてかゝる組織の中央政府所在地となるであらうことは、過去及び現在が豫言して呉れるやうに思はれる。

ジュネーブの世界地理並に人文における地位は、かくしてますます吾人の重視を要求することであらう。

(青木節一)



秋の帯地原高
 らか春でひ連間はのるへ若みのとることるれきざとに雪の風スプルアは邊のこ。るれは巖が班一の俗風の方地スイウス。プツナスのろことだん並と牛と羊山がんきみかおの姪百るあのスィウス。秋の帯地原高
 るあで産特の方地のこは醜乾キ醜牛はれき。るす供提を乳の量多は羊山と牛てし吸呼を氣空な澄清れまく育に草牧な富豊。るあで醜は秋の帯地原高スイウス。こく柔陽。るれま恵に節季好に賃はてけかに末の秋



谷溪と林森
かを精練い白は流溪るち落てう縫を間のそ。るあで帯林森たつ揃くよ位いし珍はてしと林然自。谷溪たつ茂と蒼鬱の々樹な事美
。るあてめ集を者覽遊の界世てしと地園公立國は今ハスウハルベガ・ツツビのこ。るあてつ光に日が霽殘はにき頂の山ぐ仰打。いし美にうやたけ



リ怒のスプルア
るあで極の巖壯は嶺峻のスプルアぬか動てしと然殺もに嵐い凄物。るあてしとんれは巖に嵐はスプルア今てれ垂く低雲暗
るす昂を相形な景風殺な味氣無。前嵐もスプルア山の美。るあがとこるれさ倒ぎ難くなるりまたとひに風疾すは飛を岩は扇葉針の麓山しかし



可愛しい鹿の子。冬の間、山に降りてきて、木の根元で暮らす。雪が積もると、足が滑り、危険な目に合う。鹿の子は、冬の間、木の根元で暮らす。雪が積もると、足が滑り、危険な目に合う。鹿の子は、冬の間、木の根元で暮らす。雪が積もると、足が滑り、危険な目に合う。